



秋冬どりキャベツの生育期における病害虫防除

キャベツの生育中には、アオムシやヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ウワバ類などチョウ目害虫による食害や、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などが発生します。これらの害虫対策として、生育の初中期を対象に、ベリマークSCやジュリポフロアブルなどの育苗期後半の灌注処理、ダントツ粒剤やジェイエース粒剤などの育苗期後半の株元散布または定植時の土壌処理などが行われており、薬剤によって残効が異なりますが、処理後2~4週間くらいの防除効果が期待できます。なお、IRAC分類コード：28(ジアミド系薬剤)では、コナガに殺虫効果の低下が確認されています。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかずに防除が遅れになってしまうと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

病害虫発生予報8月号(県病害虫防除所)によると、オオタバコガの9月の発生量は昨年並~やや多い、シロイチモジヨトウは多いと予想していますので、今後とも作物をよく観察し、各種害虫の発生初期に防除を徹底してください。

一方、生育中に発生する病害としては、黒腐病や黒斑細菌病、軟腐病、株腐病などがあります。例年9月に入ると、秋雨前線による連続した降雨や暴風雨が発生したり、台風の襲来などがあると各種病害の発生する懸念がありますので、常に気象情報や作物を注意深く観察して、予防または病害の発生初期における薬剤防除を徹底してください。

今後の気象1か月予報(8月18日発表)によると、「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は高い確率60%で、降水量は昨年並または多い確率ともに40%」とされ、今後は害虫にも病害にもやや適する発生条件になると予想され、病害虫の発生には十分注意が必要です。

病害虫の防除は、下記を参考に**農薬のラベルで登録内容を確認し、収穫前日数に十分注意して薬剤防除を実施してください。**

表1 キャベツ本圃(生育期)における主要害虫の主な防除薬剤 (令和4年8月23日現在)

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	タマナギンウワバ	コナガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アザミウマ類	アブラムシ類	分類
アニキ乳剤	○		○	○	○ウワバ類	○	○	○			6
ディアナSC	○	○		○	○ウワバ類	○	○	○	○		5
プレオフロアブル	○	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	○特アザミウマ		un
トルネードエースDF	○	○		○	○	○	○				22A
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○			13
アクセルフロアブル	○	○		○	○ウワバ類	○	○	○			22B
ファルコンフロアブル	○	○		○	○	○	○	○			18
フェニックス顆粒水和剤	○	○		○	○ウワバ類		○	○			28
グレーシア乳剤	○	○		○	○ウワバ類	○	○	○	○		30
モベントフロアブル	○					○			○	○	23
リーフガード顆粒水和剤	○					○	○		○	○	14
コルト顆粒水和剤									○特アザミウマ	○	9B
モスピラン顆粒水溶剤	○					○			○	○	4A

注) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 キャベツ本圃(生育期)における主要病害の主な防除薬剤 (令和4年8月23日現在)

薬剤名	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	株腐病	べと病	分類
カセット水和剤	○	○	○				24と31
カスミンボルドー	○	○	○				24とM1
バリダシン液剤5	○		○		○		U18
スターナ水和剤		○	○				31
ナレート水和剤	○		○				31とM1
Zボルドー	○	○	○			○	M1
セイビアーフロアブル20				○	○		12
シグナムWDG				○	○	○	7と11
トップジンM水和剤				○	○		1
パレード20フロアブル				○	○		7
ロブラール水和剤				○	○		2
リゾレックス水和剤					○		14
ランマンフロアブル						○	21
ダコニール1000						○	M5

注) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。